

2014年度 大阪女学院事業計画

[2014年度事業計画策定にあたり、学院全体の基本となる考え方]

大阪女学院は、開校からの歴史の130年目に立って、キリスト教主義と女子教育を建学理念とする学校として、以下のことを確認して、教育環境を整え、2014年度事業に取り組む。

1. 日々の礼拝とキリスト教行事を守り、人間の知恵が及ばない存在、聖書に示されたイエスキリストを世に送り出してくださった神さまの存在に気づき、これを基にした全人教育を目指す。
2. 平和を希求する、真実を見抜く、正直に仕事をする、社会に仕える人格を育む女子の学校として、女性の人権と尊厳を回復する教育を目指す。

I. 学院を取り巻いている環境と運営の在り方

1. 行政から望まれることから

国家成長戦略、教育再生実行会議及び教育振興基本計画等との関連において、大阪女学院の歩む方向を次のように考える。

- (1) 大学・短期大学は運営管理の基盤強化を図るため、定員割れを起こしている学生募集に集中的な取り組みを行う。
- (2) 社会から望まれ、将来の日本を支える人材は、国際競争力を備え、グローバルな環境で活躍できる人物であり、教育機関にこの人材養成が求められている。多様性を認め合うボーダーレスな地域社会と国際社会の中で活躍ができる人間を育むため、英語運用能力の習得、国際理解及び国際協力の活動展開を実施し、社会に広く報せる。
- (3) 社会のニーズに応える英語教育活動を研究する。

2. 地域社会から望まれることから

公共的性格を有する学校として、また地域社会への貢献として、学院の教育力及びリーダーシップの提供、危機管理・防災の対応策と準備を行う。

3. 長期ビジョンの設定(2014年度設定・2024年度・創立140周年に向かって)と将来への設え

大阪女学院の歩む方向を明確にするための、長期ビジョンを策定する。特に、長期ビジョンは、中期計画(2011～2015年度)目標の達成及び各プロジェクトの推進力として、また、学院の使命と中期計画及びプロジェクトを繋ぐものとして、望み見る姿を明らかにする。

このビジョンを将来の設えとして、建学理念の理解の深化と継承、学院運営の姿、求められる教育及び研究活動の展開、英語教育の展開を明示する。

II. 2014年度学院全体の取組み

1. 教職員の参画、個々の能力の活用、変化と成果が見える運営を行い、学院運営組織をより良い状態に管理する。
2. 収入に見合う支出設定(収入増加と経費削減)及びメリハリを利かせた支出設定を基本として、バランスのとれた財政管理を行う。
3. 次代を担う役員及びスタッフの採用と養成に取り組む。
4. 事務管理体制の一元化による再編成を行い、部門間での連携協力を推進する。
5. 学院の永続性を保障するために、保有資金の増強を計画・推進する。